



TRICK STAR

MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2015全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦 第47回MFJ-GP スーパーバイクレース in 鈴鹿 参戦報告書

スタートグリッド	16位
決勝Race1	16位
決勝Race2	リタイヤ

- ゼッケン/エントリー名 : #18 / Snap-on TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー : 出口 修
- 開催日 : 10月31日(土)~11月1日(日) / (三重県)
- マシン : Kawasaki ZX-10R
- 結果 : 予選16位 決勝レース1 16位 決勝レース2 リタイヤ

今回の全日本ロードレース選手権MFJ-GP鈴鹿最終戦には、世界中で憧れの工具メーカーSnap-onとタッグを組みJSB1000クラスへ『Snap-on TRICK STAR Racing』として参戦した。例年通り、最終戦は事前合同テストが開催されず、レースウィークが4日間で開催され木曜日から練習走行が行われた。チームと出口修選手は、鈴鹿8時間耐久以来の走行になるが、8耐で仕上げたマシンセット仕様でサーキット入りをする。



10月29日(木) 特別スポーツ走行 11:15~11:45
15:30~16:10

天候 : 晴れ
路面 : ドライ
気温 : 26°C→20°C
湿度 : 28%→38%
路面温度: 31°C→25°C

約3ヶ月振りの走行でマシンチェックから入る。計測2周目には12秒台。計測6周目には10秒台を記録する。午後2回目の走行では、計測2周目に9秒台を記録し3周目にはコマ1秒縮めピットイン。マップセットを変更し走行確認。再度ピットインしマップセットとリアタイヤを変更しテストを行う。他車が裏ストレートから130Rコーナーにかけてオイルを出してしまいレッドフラッグ走行中断。残り10分間で走行開始。時間を有効にテストを行う。追い風が強く吹いていた。



TRICK STAR

10月30日(金) ART合同走行 11:00~11:30
15:45~16:20

天候 : 晴れ→曇り
路面 : ドライ
気温 : 19℃→21℃
湿度 : 40%→33%
路面温度: 28℃→23.5℃

ART合同走行1回目の計測2周目には10秒台に入れるが、前日から変更したマシンセットが狙った方向には行かず、アンダーステアが出る。その対処を施しピットを出て行く。130Rコーナーからシケイン・最終コーナー区間のセクター4でタイムアップを意味するタイムモニターでグリーン色で表示される。ART合同走行2回目の走行は、開始直後ダンロップコーナーで2台転倒しレッドフラッグ。一旦ピットに戻り仕切り直し。再スタート後、計測1周目に9秒台に入れる。マシンセットを変更しフィーリングは良くなったが、更に速さを求めてピットインしセット変更。そしてリアタイヤを変更し、決勝を見越してタイヤの確認を行った。

10月31日(土) 公式予選 Q1 10:25~11:05
Q2 14:15~14:35

天候 : 晴れ 路面 : ドライ
気温 : 18℃ 湿度 : 38% 路面温度: 25.8℃

今回の予選はノックアウト予選で行われた。全車Q1の40分間のタイムアタックを行い、上位10台がQ2に進める。また、予選で使用できるタイヤ本数は2セットと限られる。予選開始後、1周目4番手で帰ってくる。計測1周目に9秒941。2周目に9秒392。ピットインしマシンの状況をメカニックに伝え、フロントサスペンションをアジャストしピットアウトする。その後、ピットイン・アウトを繰り返しサスペンションセットを変更し路面温度やタイヤに合わせて行く。残り時間が10分で前後タイヤ交換しピットアウト。計測1周目11秒台。2周目9秒435。3周目にタイムモニターに表示されるセクタータイムがベストタイムで推移していく。8秒台、それも8秒台の真ん中辺りに入ると期待したが、裏ストレートでガス欠症状が出てしまいペースダウンを余儀なくされ9秒488だった。結果16番手で終わる。

11月1日(日) ウォームアップ 8:25~8:50

天候 : 晴れ 路面 : ドライ
気温 : 14℃ 湿度 : 48% 路面温度: 16.5℃

決勝日、朝から快晴。決勝を見越してのタイヤ確認を行いたかったがタイヤグリップが発揮出来る温度レンジに路面温度が上がってこない。ウォームアップ走行時間にペースカーの練習も行われた。ペースカーが解除された直後、3コーナーで転倒する車両もあり、各ライダー、路面温度とタイヤのマッチングに苦労しているのが伺えた。



11月1日(日) 決勝レース1 11:00~ 10Lap

天候 : 晴れ
路面 : ドライ
気温 : 22℃
湿度 : 46%
路面温度: 28.0℃

決勝グリッドに着き選手紹介の後、ウォームアップラップがスタートしたが、200Rコーナーで1台が転倒してしまう。そのマシンを回収する為にスタートデレイ。スタート進行をやり直し決勝周回数が10周から9周に減算される。スタートは上手く決まり、逆バンクコーナーでは14番手で通過する。2周目・3周目終了時点では15位。4周目終了時点では16位。前車との差は-0.1秒、後車との差は+0.2秒。6周目にはダンロップコーナーで先行するライダーが接触転倒してしまう。6・7周目終了時点で15番手。前後との差は殆どなく接戦で推移する。8周目に16番手-0.5秒、後続とは大きく引き離し+10.0秒。ラストラップ16位でゴールする。

11月1日(日) 決勝レース2 15:00~ 20Lap

天候 : 曇り
路面 : ドライ
気温 : 19℃
湿度 : 37%
路面温度: 22.0℃

JSB1000クラス決勝レース2までの他クラスのレースで進行が遅れ、スタート時刻が15:30まで遅れる。そして20周のレースが15周に変更される。今回もスタートは上手く決まり、逆バンクコーナーでは14番手までポジションアップする。1周目終了時点で15番手。2周目の逆バンクコーナーまでに前車を抜き14番手に上がる。しかしゴールラインでは15番手。3・5周目ゴールラインでは15番手で前車との差は-0.1秒。6周目は前車を抜き14番手に上がる。7~9周目ポジション14位をキープし後続を抑えながらの走行を続けるが、他車が転倒してしまいレッドフラッグが掲示されレース中断になってしまう。15周レースの3分の2周、10周が終了していればレース成立と判断されたが、9周時点での中断で残り7週の再レースを行うと通知された。再レースのサイティングラップからウォームアップラップを消化しスターティンググリッドに着く際、出口修選手はマシンの異常を感じピットに戻って来てしまう。マシンを確認するがライダーの安全を考えリタイヤを選択した。





TRICK STAR

ライダー 出口修 コメント

まずは、現地まで応援に駆け付けて下さった皆様に心より感謝申し上げます。
今回の全日本ロードレース最終戦、世界的工具ブランド『Snap-on』さんのバックアップを受け万全の状態での臨みでした。8時間耐久以来バイクに跨っておらず不安も有りましたが、新しく投入されたダンロップタイヤは走り出して直ぐに今シーズンベストラップタイムを記録するほど好感触で、予選ではマイナートラブルが発生する直前まで自身のベストタイムを更新するタイムをセクターごとに刻んでいただけに数字で記録を残せなかった事は大変残念でしたが、ライダーとしてのスピードを確信し自信を持ってレースに臨む事が出来ました。実際のレースはレポートに有る内容が全てです。
今シーズンはヤマハがファクトリー参戦を開始し、更にジュニアチームを設けるなど層は厚く、また他のファクトリー系強豪チームが多数参戦する中、我々のような完全なプライベートチームのマシンではカテゴリー違いではと思わされる程マシンのスピード差を感じ、時として目標を見失いそうな事も有りましたが、現実を受け止め今ある力を精一杯出しました。結果は真摯に受け止め、今後の我々に何が必要か、何が出来るかを考え、未来を見据え今日から一歩ずつ前進していきたいと思えます。
関係各社様はじめ、我々のチャレンジをあたたく見守って下さった皆様、チームスタッフの皆様には心より感謝申し上げます。応援有難う御座いました。

監督 鶴田竜二 コメント

チームとして今期の国内の活動はメインは鈴鹿8耐ですので全日本ロードレース選手権シリーズはスポット参戦2戦のみの参戦となりました。
そんな状況の中で出口選手の走りは現状では精一杯走ってくれていたと思えます。
ダンロップタイヤも確実にポテンシャルが上がってきておりかなり期待がもてました。
また今回は世界的な工具ブランドである『Snap-on』とタッグを組み参加させて頂きました。
スポット参戦ながらレギュラー組に混ざってレースをする事は大変でしたが、そこは言い訳できない勝負の世界です。
チームは今回のレースを経験し、また沢山データも取る事が出来多に成長できたと思えます。
結果こそ残念でしたが確実に次回のレースに繋げて行けると確信しております。
最後になりましたが、私たちのチームにご支援頂きましたスポンサー様、ご協力頂きました関係者様、熱い応援を頂きましたファンの皆様のお陰で国内のシーズンを無事終える事が出しました。
本当にありがとうございます。感謝しております。
今後も我々のチャレンジは続けて行きますので引き続きよろしくお願い致します。